

篤農家 石畑久成 氏の 80 年



昭和 60 年 9 月訪問 野呂己之松

私は、明治 30 年 11 月、福島県伊達郡藤田町石母田、農家の 6 男として生まれました。現在の郡山市より国鉄水郡線に入ったところです。

鉄路を走る S L の姿を見ながら育ちました。

腕白の頃は、日露戦争勝利の影響か軍人気風の盛んな時代で、子供の遊びには専ら兵隊ゴッコで、厚紙で肩章を（階級章のこと）作り、又、手頃な竹の棒は、サーベルになったり、鉄砲になり肩にかついたりして悪童どもは、あきもせず毎日集まっては遊んでいたものです。当時の東北の農家のほとんどがそうであったように、私の家も例外なく貧しいものでした。白い米のご飯は、なにか事がなければ、例えば正月とかお盆とか、特に身体を悪くしたときなど米のお粥を食べて寝てると治るなどと云われ、このように特別な場合でなければ食べられなかったのです。これは日露戦争後の経済不況も大きく作用していたのでしょうが、とに角そんな生活状態の中で、政府の北海道移民政策に惹かれて、大正元年私の両親は新得に移住しました。農民として広い土地が欲しかったのだと思います。

私は、故郷に残った長兄のもとで、藤田尋常高等小学校を卒業したのです。学校時代の思い出は、同級生 42 名中成績は万年 2 番でした。どうしても 1 番になれなかったのです。（現在でも思い出すがなにか事情あったのではとも考えています）そんな中である時の学芸会に、唱歌を大変上手だとして、校長さんよりの指名で、アンコール独唱したものでした。これが在校中の懐しい思い出になっています。そのような事があったりして、卒業と同時に、大正 2 年 5 月、父母兄弟のいる屈足村佐幌へ参ることになりました。

故郷福島を出発する時、長兄より少しばかりの小遣銭と新得までの切符を買ってもらい不安一杯、初めての汽車の旅でした。かぞえて 16 才になっておりました。

列車の乗換えや連絡船は大変なものでした。特に連絡船は、当時大型船用の岸壁はないので小舟に乗り本汽船に乗船するのだが、ゆるやかながら揺れるものだからブリッジを登る気分は全く気持悪いおもいをした。下船の函館では、汽船から小舟、そして汽車に乗り換える、大変難儀なものでした。汽船が津軽海峡の中程にさしかかると揺れは一段と強くなりひどいものでした。三等船室の人々は、ゴロゴロ転がる状況、全員青い顔していたし中には、四角い箱を抱いてがんばっていた人も多くいました。（注 四角の箱は吐きだした物を受けるための箱）。船が小さかったのですね。そんなおもいをしながらようやく函館から北海道内陸に向う汽車に乗ることができて小樽、札幌、滝川と列車を乗換えながら落合に着きました。ところが、「この列車はここで止りです」との車掌の声、驚きました

が下車し財布の中をと見れば60銭あるばかり。淋しく、情けなかったが、駅前の旅人宿で食事はいらなからと泊り、つぎの朝、あり金60銭を払いつくして汽車に乗り、新得駅に着いたのが10時頃でした。

母は、私が落合に一泊したことを知らないものだから、二度も駅に出迎えをしてくれていました。ありがたいものです。佐幌3号道路のまだない時代でしたので、6号道路を母と歩きました。上りきった道ばたの草むらの中に二人で座り、母の持参したイナキビのにぎり飯を食べたものでした。空腹に加えて、母の久しぶりの手づくりのにぎりごはんのあの味は生涯忘れられない思い出です。これ程難儀なおもいをして着いたわが家は、俗に云う、竹の柱に笹の屋根といわんばかり、正直のところ驚きました。しかしこれが北海道開拓の姿なのだとは心に深く響くものがありました。そんなことより、両親と兄弟達に無事に会えた喜びは格別なものでした。本当に嬉しかったですね。当時の内地での田舎では、北海道を「えぞ」と言っている人々が多く、「えぞ」に旅立ちは水盃でもして出立する程の気構えが必要とおもわれた気風の頃でしたから。皆んなと会えた嬉しさは現代の人々の想像を超えているとおもいます。

家の周囲は、開拓による大木の根株があちらこちらに残っており、木の根株の間に畑がある状態でした。その荒々しさ、木立ちの深さ、笹の濃さ、どれをみても内地では見られない景色、土地を開いてゆく前途をおもい、身振いとも、戦慄ともつかぬものが身内を走ったのをおぼえております。

(未完)

(参考)

移民に関わる法令抜粋

土地払下げ施行手続 明治26年庁令第5号 (注・北海道庁令)

北海道土地払下げ規則第三条ニヨリ貸下げ得べき土地ハ原則トシテ予メ区画ヲ定メ毎年広告ス と定めた。更に、明治29年(1896)植民地区画施設規程を定め方針を示すこととなった。

十勝を区画されたのは、明治25年(1892)6月帯広基点として始まっていた。

移民の区別として

応募移民……………団体とし同郷の人々で組織された者

自由移民……………自己資金による者

単独移民……………府県知事から移住証明交付を受けた者

その外貸下げ土地面積、払下げ金額、開拓条件等の細部についての令達を定められている。